憲教類典

卯
合66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

憲教類典

一ノ四　宣命

卯
115
1

東京圖書館

門	類	函	架	號	冊
		卯		一	一一五

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館蔵書

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

№1075/23

慶長八癸卯年二月

當職

宣旨

征夷大將軍

淳和奨学兩院別當

源氏長者

右大臣 位階如元

叙左近衛大將

隨身兵杖如元

一ノ四 宣命

一條左大臣照通

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

牛車馬寮監

以上五通

宣命

天皇我詔旨於良万止 抑諸國總補之事鎌倉右大臣
源頼朝此職於賜利征夷将軍於賜當三代而執権
職登成當後足利尊氏武威於四海振大之字於加
征夷大将軍登勅宣其上淳和奨学両院別当於賜
理嫡孫義滿(源ノ字脱欤)氏之長者兵杖馬寮監之詔旨於請大政
大臣任從是相續(忘而)此職在此家足利絶衰而
此職止乎今家康我武功日本秀而四海静平万
民安開之思并成須忠孝之甚敷於感忠此職於賜利賜布
天皇我勅命於聞食

干時慶長八癸卯仲春日

慶長十八癸丑四月

當職

上卿

宣命使

宣旨

征夷大將軍

淳和奨学兩院別當

源氏長者

二條大政大臣家通

二條内大臣忠茂

青木大内記範正

隨身兵杖

牛車馬寮監

叙右近衛大將

正二位内大臣

以上七通

宣命

宣命二曰征夷大將軍之職中絶志乎家康武於四海

輝志四海尾惠身國土安閑之思ヒ成須是忠義於

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

感忘此七津之職於贈當家康老年ニ依而此職尾
欲須退カ一登令秀忠我武威父ニ相並而器量莫大
也其德於感忘手此職於秀忠賜利賜字天皇我
勅命尾宣給布
于時慶長十八癸丑首夏日

元和三丁巳年四月

當職　一條左大臣師光
上卿　九條右大臣康通

勅使　廣橋大納言兼通
宣命使　甘露寺宰相光富
贈正一位　大外記通友
宣旨
東照大権現

宣命

勅宣ニ曰柳太政大臣家康幼少之後昔敵之囲陣ニ間連
其囲於遁連若年之従時心武ク長年志而古代之名
将越而武威於日本ニ輝志逆乱於治庶民安閑之思并
成須是彼朝臣我忠功多利依而在世之忠義尾感志
神灵登仰東之守護神多羅ヽ事尾勅命有而
宣旨尾宣給布

于時元和三丁巳初夏旦

元和九癸亥年七月

當職

勅使

宣命使

宣旨

征夷大将軍

淳和奨学両院別當

源氏長者

牛車馬寮監

二條左大臣忠通

令出川一位房幸

伏原大内記基久

隨身兵杖

叙左近衛大将

内大臣位階如元

以上七通

宣命

天皇我詔旨乎宣給（并而）曰武臣家康武徳（乎）感志

此職（於）賜（而）相続（并而）秀忠武威於四海ニ顯、連手海

内静多利未年若（之）（止）雖此職（於）拝家光其器量之

徳顯（而）依而此職尾賜利賜布

給字

天皇我

勅命乎宣

于時元和九（癸）（酉）年（之）（止）孟秋日

寛永九壬申年二月

當職

傳奏

宣旨

台徳院

贈正一位

宣命

勅宣。曰秀忠在世之内粉骨盡忠。

近衛左大臣氏輔

徳大寺大納言廣元

正親町中納言光季

万民安氣之思。并於成須。令病去未不余年多利益。

惜身給并院号僧位賜當是偏。在世之忠義於感。

賜布

于時寛永九仲春日

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

慶安元戊子年四月

當職
勅使
上卿

宣命使

宣旨

東照宮

于時慶安戊子孟夏日

近衛左大臣輔尚
久我右大臣富房
九條左大將賴基

壬生藏人頭直通

慶安四辛卯年五月

当職
傳奏

宣旨

大猷院

贈正一位大政大臣

宣命

詔旨曰柳家光朝臣國家於
治二十余年四海堂手治り

雁鳥司左大臣房通
烏丸大納言通光
轉法輪大納言公重

國民心尾安平之利雖年若登病去布彼臣治世之内
靜平之功依而院号贈位贈官於詔旨に命志聞
食止宣宇

于時慶安四辛卯仲夏日

慶安四辛卯年七月

当職　九條大政大臣通基

勅使　徳大寺右大臣公實

宣命使　押小路大外記經久

宣旨

征夷大将軍

淳和奨学両院別当

源氏長者

随身兵杖

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

叙右近衛大将

牛車馬寮御監

内大臣　位階如元

宣命

天皇我詔旨乎宣給布掛畏征夷大将軍者家康武威乎四海尓振弖万民安心之思弖成須徳尓依而此職乎賜乎此職至今二此家尓有リ家綱幼年ト徳川家徳乎感志此職乎賜留長年之後永久國家之守護多留事尾思弖給字依而勅命是我為二宣給布

于時慶安四辛卯初秋日

延寶八庚申年四月

當職
上卿

勅使

宣命使

執事

御幼年ニ付端書如斯是酒井讃岐守忠勝也

九條大政大臣通基
二條左大臣光平
鷹司内大臣房輔
中院大納言通朝
池尾中納言排元
石原少納言祐章
若狹少將

宣旨

嚴有院

贈正一位大政大臣

宣命

詔旨ヲ家綱在世三十年四海靜平庶民安全思於名須水年若登雖不 薨須治世之德於感志手 院号

贈官賜理賜布是我為ニ勅命尾宣給布

于時延寶八庚申初夏日

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

延寶八庚申年
当職
勅使
宣旨
征夷大将軍
淳和奨学両院別当
源氏長者
随身兵杖
宣命使
鷹司左大臣房、輔
大炊御門内大臣公経
青木大内記経章

牛車馬寮監
叙右近衛大将
内大臣　位階如元
以上七通
宣命
勅命曰征夷大将軍者家康我武徳ニ依而此職於
賜理　従是年久々徳川ニ傳當今家細讓職之男子無ニ
依而綱吉ニ讓羅ニ登　願布徳川代々武徳ニ依而國家平安

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

之功於戚志手此職尾綱吉賜當天皇我勅命宣給字

于時延寶八庚申南呂日

宣命使

寶永六己丑年二月

当職

上卿

勅使

鷹司左大臣房輔

近衛右大臣通昭

鷹司左大将房基

花山院大納言茂直

千種大納言知時

宣上旨

常憲院

石原少納言治高

贈正一位太政大臣

宣命

天皇我勅命乎曰綱吉在世三十年之内四海安全多理
令病去治世之忠儀於感之院号贈正一位太政大臣登
贈成須勅命是我為乎宣給字

于時寶永六己丑仲春日

寶永六己丑年四月

當職

勅使

宣命使

宣旨

征夷大将軍

淳和奨学兩院別当

源氏長者

隨身兵杖

近衛左大臣相尚

菊亭内大臣富相

山本藏人頭安道

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

牛車馬寮監

叙右近衛大将

正二位内大臣

以上七通

宣命

勅命ヲ白ク征夷大将軍職者家康從徳川ヨリ今ニ至マデ
綱吉譲職之子無ニ依而家宣ニ此職ヲ於譲羅ス登ニ願フ布
徳川家代々國家之守護登志手海内静平之忠功於

給ハ天ノ字ヲ脱ク

感ジ給ヒ家宣ニ賜利賜布皇我勅命ヲ宣給フ宇相尚

于時寶永六己丑孟夏日

正徳二壬辰年十月

當職

上卿

勅使

近衛左大臣相尚

二條右大臣綱方

近衛左大將家久

大炊寮 頭 源朝臣 良豊

陰陽頭 兼 天文博士 賀茂朝臣 在弘

陰陽助 安倍朝臣 泰邦

陰陽允 賀茂朝臣 在貞

陰陽允 賀茂朝臣 在富

陰陽允 賀茂朝臣 在茂

陰陽允 賀茂朝臣 在久

陰陽允 賀茂朝臣 在方

陰陽允 賀茂朝臣 在音

陰陽允 賀茂朝臣 在治

陰陽允 賀茂朝臣 在家

陰陽允 賀茂朝臣 在徳

陰陽允 賀茂朝臣 在弘

贈正一位太政大臣

宣命

詔旨、曰家宣在世短志先祖代、朝家之守護登志手
四海安全之功先祖代、忠義於感志手家宣尾文昭院
太政大臣登贈利成須是勅命二宣給宇

于時正徳壬辰初冬日

正徳三癸巳年

當職

勅使

宣命使

宣旨

征夷大将軍八十一嶋之三

淳和奨学両院別當

源氏長者

叙右近衛大将

九條攝政関白幸基

久我内大臣好経

伏原大外記経蔦

正二位内大臣

以上四通

牛車馬寮監

此品八十一歳マテ二條家ニ預ル

宣命

勅命ヲ曰柳営征夷大将軍職者上古従幼無志手勤
事無忘雖然利家康感尾四海粛志天下安全之治志後
此職年来有此家ニ此徳於感志家宣我一
子多留依而家継ニ此職於賜利賜布詔旨宣
賜布

于時正徳三癸巳維夏日

藤谷大納言秀能
押小路大外記雅富

正徳六丙申年五月

當職

上卿

勅使

九條左大臣行基

近衛左大臣相尚

徳大寺一位良安

藤谷大納言季能

押小路大外記雅高

執事

宣旨

有章院

贈正位大政大臣

宣命

詔旨。曰家継幼無久忘手病去登雖暫々朝家之守護多尚二依而有章院贈正一位太政大臣登賜利宣布仍勅命二宣給宇

于時正徳六丙申仲夏日

享保元丙申年八月

當職

勅使

宣命使

宣旨

征夷大将軍

淳和奨学兩院別當

源氏長者

牛車馬寮監

三條左大臣綱房

柳原従一位親基

高辻蔵人頭久経

隨身無杖

敘右近衛大將

正二位内大臣

以上

宣命

詔旨ニ曰征夷大將軍者久敷徳川家ニ傳利

朝家之守護多利故ニ四海安平ニ治理庶民安

樂之思リ於栄布然ニ今家継不幸ニ志手此職絶

多利家継職於長福ニ譲羅ン登願布雖然理未幼志

家康武徳於以手四海心之儘ニ治忠尾感志長福成人之

比間ニ吉宗ニ職於預毛賜ニ仍勅命吉宗ニ宣給字

于時享保元丙申仲秋日

元禄九丙子年八月廿日

同神階宣命

天皇我詔旨良万止多田乃権現ヶ申賜倍止白ク高
秩厚ク礼ク禮元功ヶ答倍徴列於百代乃後ヶ照者
往世乃恒規奈利惟神源家乃名将武門乃
英雄多利此ヶ依氏ニ正二位乃階級乎授奉利崇
奉留状乎従四位上神祇権大副兼尤京
権大夫大中臣朝臣徳忠乎差使氏神位

記令持氏奉出須此状乎
庭乎常盤堅盤尓守奉幸奉賜比氏天下平
安尓武運長久尓護助賜倍止申給者久申ス

元禄九年八月廿一日

天皇朝臣

同林蔵宣命

元禄九丙子年六月九日

制可

月晨時二四位下行大外記兼掃部頭造酒正中原朝臣師庸

左中辨俊清

開白従一位朝臣

大政大臣關

左大臣正二位朝臣

右大臣正二位朝臣

内大臣正二位兼行左近衛大将朝臣

式部卿 闕
正二位行式部大輔豊長
左大辨 闕

告多田社奉 制書如古符到奉行 従四位上行少納言兼侍従
式部少輔明経博士弘賢

元禄九年六月九日 大録
少録
少錄

正三位行権中納言臣 萬親
正三位行権中納言臣 淑定
正三位行權中納言臣 勝房
正三位行権中納言臣 基勝
正三位行権中納言臣 頼重
権中納言臣 公全
権中納言臣 定綱等言

制書如右請奉 制附外施行謹言

元禄九丙子年六月九日

無品中務卿邦永親王　宣

従四位上行中務大輔菅原朝臣長時　奉

従五位下中務少輔兼行少内記臣中原朝臣職孝行

正二位行権大納言臣　資熙

正二位行権大納言臣　伊季

正二位行権大納言臣　経通誠

正三位行権大納言臣　通誠

正三位行権大納言臣　冬基

従二位行権大納言臣 公通
従二位行権大納言臣 兼大近衛大将臣 綱平
従二位行権大納言臣 宗顯
従二位行権大納言臣 實業
従二位行権大納言臣 豊忠
従二位行権大納言臣 持實
従二位行権中納言臣 意光
従二位行権中納言臣 隆真

元禄九丙子年六月九日

同神階位記

多田社 可正一位

中務武徳惟明英名彌盛崇靈於
河邊授以極位照蹤於泉壤乃増褒
貴專成感應用護國家可依前件
主者施行

元禄九年六月九日

元禄九丙子年　三月廿八日

宣命

多田社権現歸
天皇我詔良万止詔倍止勅命乎聞食止宣布兵威乎閻外尓振底綏四方功立氐百行成ル身既没志天名存利勢其霊乎崇氐攝津國多田乃舊廟乎改給比吉日良辰乎擇定氐権現尓崇給比治賜布此状乎平介久聞食氐天皇朝廷乎寶位無動

常盤堅盤尓夜ノ守日ノ守リ護幸給ひ海内静
謐尓國家平安尓護恤賜倍止恐ミ美恐ミ美毛申賜
者久
止申ス

元禄九年三月廿八日

天皇我詔旨良麻止詔ル勅乎聞食ス将軍石太臣源朝臣
家宣命乎聞食ス事乎備ス威名遍
荷田社資ス身安穏乃哥乎
多田社専ス宇乃至治乎
壺井權現
六孫王

天明六丙午年九月廿三日

宣命

天皇我詔旨良方止故征夷大将軍右大臣源朝臣家治尓詔倍止勅命乎聞食止宣布身波安危乃哥手荷氏徳望殊尓高久資波文武乃事乎備氏威名遍久敷介利偏干城乃重任乎受氏専寝宇乃至治乎致勢利允惟将家乃偉器尓氏尓疾疚尓侵左礼底遠慮爾止志底薨奴故是以大政大臣正一位尓上賜比贈

給布

天皇我御命聞食止宣

天明六年九月廿二日

宣命

天皇詔旨止勅命乎

享保元丙申年七月

當職二條左大臣綱房

上卿二條内大臣吉冨

勅使庭田大納言雅房

宣命使高辻左衛門尉秀通

宣命

天皇我詔止萬止柳諸國惣追補之事鑓倉

武臣大納言叙二位右近衛大將源頼

朝始而此職於賜嫡家相續記征夷大

将軍多利次男實朝此職於取利始任右大臣
年去而足利治部大輔尊氏大将軍之職
於賜利諄和幷学兩院別当之詔止於請詔
於請毛從是此職在武臣嫡孫義満源氏
長者隨身兵杖牛車馬寮監之請詔止於
任大政大臣從夫子孫孫至當此職足
利十五代而此職絶多利從是年去而後
清和之類子新田之末孫徳川正二位内
大臣源家康武威之甚敷於感志此職於
賜當以武於靜ゝ逆徒以文於安諸民於
故此功於感志東照大権現登贈而二一
位大相國於賜當嫡秀忠其讓於請毛此職
於務至當大祖故大政大臣多利嫡子家光其
讓利於取當嫡子家綱此職於續雖然家綱
讓職之一子無依而家光我末子二三位
宰相源綱吉此職於賜雖綱吉一子無二

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

依而家光我次男正三位宰相源綱重我
嫡子正三位中納言綱豊於養而改家宣
故此職於賜當家宣詮四年治薨世利嫡
子家継雖為幼無記此職於賜當家継漸
八歳三忘手薨世利依此職絶世利家康
武威之功於感忘手家康我末子多當從
二位大納言源頼宣我孫正三位中納言
吉宗此職於賜利賜布是家康我武功忠

信登云〻
天皇我勅命於聞食宣乎
于時享保元丙申年初秋日
傳奏下而
徳大寺従一位尹重
庭田大納言重條

元禄九丙子年八月廿一日

同使奉向官符
大政官符摂津国　應奉神位記事納轄柩壱合　充夫二人
使従仕立　衛祇權副左京大夫大中臣朝臣　従捌人
神部壱人　従壱人

右三位行權大納言源朝臣通誠宣奉　勅為奉
多田権現神位差件等人充使發遣者国宜承知依
宣施行仍須國牧宰潔齊擇定便所与使者共披讀
宣命然後國司請取位記奉之不得違失符到奉行

二品位階中辨藤原朝臣俊清修理大寺大鄽假四位衛門尉左京大夫小規

元禄九年八月廿一日

宿禰奉

多田宮、摸刕河邊郡多田莊多田院村

五座　満仲公　頼光公　頼信公
　　頼義公　義家公

満仲公神顯緋威甲冑曲御太刀　鮫鞘
金鍔尤手

御弓右手御矢御葦毛御馬　源家御鎧系
毛以此宜考之

元禄十四辛巳年十一月十八日

山城國紀伊郡桃園郷
遍照心院所祭六宮者経基
王之霊社也依關東執奏
被奉授正一位其宣命如左
天皇我詔旨良万
倍止六孫王権現尓中賜
白久権威於聞外尓振比徃代四充
軍旅屢動邊鄙無虧惟神源家乃

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

良将武門乃雄才移是以正一位乃極
位乎授奉利崇當状乎正四位下行神
祇権大副兼左京大夫中臣朝臣
徳忠乎差使氏神位記乎令持氏奉
出當此状乎聞食底天皇朝廷乎常盤
堅盤尓守幸奉賜比天下平安尓武
運廷長尓護助賜倍申給者久申ス
止
元禄十四年十二月十八日

元禄十四辛巳年九月三日

壺井靈社記

河内國壺井神社權現号　宣命

天皇我詔旨良方止河内国古市郡壺井八幡
宮乃邊尓坐ス源朝臣頼信頼義義家尓
詔倍止勅命乎聞食止宣而振厳威於四海
擧功名於万邦ス武門之勇士明時之良
将全感霊験弥仰安平乎彼是以吉日

良辰乎擇定氐壷井権現度崇給比治賜布
平安久聞食氐天皇我朝廷乎寶位無動ス
常盤堅盤尓夜守日守尓護幸給比公道
正直尓武運延長尓恵助給倍恐美毛申給者久
申ス

元禄十四年九月三日

元禄十四辛巳年十一月廿二日

神階位記

壷井権現　右可正一位

中務武徳大明神策全備　靖冦於十
里建功於万年　宣崇威霊式贈尊
位可依前件主者施行セヨ

元禄十四年十一月廿二日

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

元禄十四辛巳年十一月廿三日

無品中務卿邦永親王　宣

正四位下中務大輔兼勝原資順　奉

従五位下中務少輔兼行少内記臣中原朝臣職永行

正二位行権大納言兼右近衛大将臣　伊季

正二位行権大納言臣　通誠

従二位行権大納言兼左近衛大将臣　綱平

従二位行権大納言臣　豊忠

同断

特賞

同断
同断
権大納言正三位臣　公量
同断　　公全
同断　　家久
同断　　師孝
正三位行権中納言臣　爲茂
同断　　時方
同断　　基勝

元禄十四年閏十二月廿三日

同断　通躬
同断　頼重
同断　致季
同断　経音
同断　昭尹
同断　尹隆

同断無左近衛権中将臣　吉忠等言

制書如左請奉　制

制附外施行謹言

元禄十四辛巳年十一月廿二日

制可日辰時三四位下行大外記兼掃部頭造酒正中原朝臣師庸

尤中辨兼廉

関白従一位朝臣

大政大臣従一位朝臣

左大臣正二位朝臣

右大臣正二位朝臣

内大臣正二位朝臣

式部卿 閑

正二位行式部大輔

参議従三位行左大弁 俊清

式部少輔 兼

告壺井権現奉 制書如右符到奉行

元禄十四年十一月廿三日 大錄

少錄

少錄

元禄十四辛巳年十一月廿三日

神階 宣命

天皇我詔旨良万止壺井乃権現尓申賜倍止白

各武略於八埿尓運志征戦大克邦域

盡靜万尚希世乃威烈奈利惟神源家良将累代

乃英武利多利是以正一位乃極位乎授奉利崇奉

尚状乎従四位下行左兵衛権佐卜部朝臣

無章乎差使氏神位記乎令持氏奉出給布

此狀乎聞食氏
天皇朝廷乎常盤堅盤尓護幸賜氏四海
靜謐尓武運延久尓護幸賜倍止申給者久止申ス
元禄十四年十一月廿三日

元禄十四辛巳年十一月廿二日

使參向官符

大政官符　應奉　神位記事納韓樞壹合宛夫貳人
使從四位下行左兵衛權佐ト部朝臣兼章從　捌人
神部壹人　從壹人

右從二位行權大納言藤原朝臣篤親宣奉
勅為奉　壷井權現　神位記差件等人宛使
發遣者國宜承知依宣施行仍須国牧

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

宰潔齊擇定便所與使者共披讀宣
命然後國司請取位記奉之不得違符到
奉行
正四位上行大辨藤朝臣判備大寺大佛長官從四位上行大史
小槻宿禰判奉
元禄十四年十一月廿二日

元禄十四年辛巳年

河内國古市郡座正一位壷井三所大権現

第一源頼信公霊
故鎮守将軍従四位上河内守多田霊社第
五男天延二年降誕始為冷泉院判官代後歴
六ヶ国受領聴内昇殿永正三年九月朔日逝
七十四歳法名蓮心

第二源頼義公霊
故鎮守府将軍正四位下伊豫守　頼信公
一男長保五年降誕奉勅聴内昇殿永保
二年十二月三日逝八十歳法名信海

第三源義家公霊
故鎮守府将軍正四位上陸奥守　頼義公
一男長暦二年降誕始号八幡太郎歴左
馬権頭出羽守等聴内昇殿長治二年
八月十八日逝六十八歳法名信了

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

卯
115
1

右三座元禄十四年辛巳九月三日　勅号賜并
権現同年十一月廿三日授正一位神階是實
依大樹殿下執奏也謹按義家公四男式部
大輔義国公徳川家之上祖也嗚呼追遠之至
尊神之典昭代盛事莫大於此乎
寶永三年季秋　　従五位下刑部大輔源幸和
謹書

憲教類典

一ノ五 官位
一ノ六 御朱印
一ノ七 祭礼

卯
115
1

東京圖書館
門 類 函 架 號 冊
卯 一 一二九

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

東京國立博物館藏

W2 1076/23

寛永二乙丑年八月

官位沙礼物品覚

宰相成

沙弥分折紙白銀弐枚附属

上臈沙弥

長橋沙弥

大沙弥乳人

末宮沙弥

沙弥分折紙白銀弐枚附属

上臈沙弥

一ノ五 官位
一ノ六 御朱印
一ノ七 登礼

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

御乳人ヘ

東宮御不ヘ　御方ヨリ折紙ヲ以被仰下

上臈御局

勅解由小路御局

中宮御不　同断

上臈御局ヘ

兵部ノ御局ヘ

内侍所　御方ヨリ折紙ヲ以被仰下

上ノ御

職事

宣旨

女侍参　方折紙ヲ以被仰下ル

剋限

雑掌四人

禁裏

東宮御不

東院御不

沖乳人ヘ

東院沖ニ　沖ヨリ折紙ヲ以テ招ク

上爲沖爲

勘解由小路沖爲

中宮沖ニ　西洞ヨリ折紙ヲ以テ招ク

上爲沖爲ヘ

兵部卿沖爲ヘ

西洞院　方ヨリ折紙ヲ以テ招ク

一一五
一一六
一一七

雜掌四人

刷役

右召物シ外爲引

禁裏

東宮沖ニ

東院沖ニ

西洞院　方ヨリ折紙ヲ以テ招ク

一昨日被召

四位ニ叙ス

綿百把

縮緬蒔絵白十
　　ヲ十
　　イ右

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用　挟み込み物

中宮御不
　　直衣奏古万百代黄令三枚小袖三充
　　中将成
禁秉　御方折紙黄令三枚附置
上臈局ゟ
長橋局ゟ
大口乳人ゟ
東宮御不　御方折紙黄令三枚附置
　　同拾寿　白木弐ツ重イ赤
上臈局ゟ
　　杉原十帖陸子一巻
口乳人ゟ
東院御不
上臈局ゟ
勘解由局ゟ
中宮御不
上臈局ゟ
　　兵部丞局ゟイ付ゟ
内侍不　御方折紙白張紙三枚　付置
　　スイニネ

上卿
職事
宣旨
奏
副使
雑掌二人
右大将
禁裏　御方
東宮御方
白銀六枚
同
同枚
同枚
同枚
同疋
同疋
同疋

上爵ニ為ル
出気人ヲ
日ヲ
本院御下
上爵ニ為ル
勲解ヲ小松ニ与ル
日ヲ
中宮御下
上爵ニ為ル
日ヲ
内侍下
上爵ニ為ル
日ヲ

上卿
職事
宣旨
両伝奏
副使
雑掌人
禁裏
東宮御下
右宣旨ヲ以テ為ス礼

白紙ニ書ス
日ヲ
白紙ニ書ス
日ヲ
白紙ニ書ス
日ヲ

本院御不　　日(イ太)
中宮御不　　縮緬之巻
　面伝奏
　　國郡侍従成
禁裏　　御書始
　官銭並百疋文
東宮御不　　日野
本院御不　　勘解由小路三位教言卿
　　小袖三完

中宮御不　　白銀拾枚
内侍不　　同三位教
　上﨟
　職事
　宣旨　　日野
　面伝奏　　日野枚
　副使　　日野完
御方々代　　日野
雑掌十四人　　日野拾疋完

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

右ノ外各官各位ニテ初ヨリ終迄勅
許ノ人数物ノ別ニ及ハス

郡取侍従成

禁裏　御本方形紙白紙二十枚折長
　宮幾百曳文
東宮御所　御本方形紙白紙廿枚
春院御所　同断
中宮御所　白紙廿枚

内侍所　同断
　上古
　職事
　宮官
　奏官　白紙六枚
　内侍奏　同断
　副使
　御本方代
　雑掌四人

右ノ外各位ニテ初ヨリ終迄勅許

禁衛　　黄令奉敕

上爵公爵ハ

長官公爵ハ

大納言ハ

本院沙汰　白紙令奉敕

上爵公爵ハ　白紙奉敕

動解由小祓公爵ハ　同

中宮沙汰　白紙令奉敕

上爵公爵ハ　同

兵部公爵ハ　同

囚侍不　白紙令奉敕

上卿　同

職事　同

位記　同

但正四位参議　那次三枚

宣告
御請印
但主ヨリ郡ヲ又ナシ
中勢大補
每御奏
中務少輔
但主ヨリ郡ヲ又ナシ
主鈴
但主ヨリ郡ヲ又ナシ

副使
左右大弁
雑掌四人

四位或侍従已上
陳時御礼物
禁裏
東宮御不
東宮御不
東宮御不

中宮御本　同御
奥書并
雑書ニ入
禁秘　御方違行幸
宸筆宸翰
東宮御本　御方違行幸
本院御本　同御

中宮御本　白紙ニ書
内侍本　同紙ニ書
上ニ
識ス
宣旨
百官charts
副使
御方違
雑書ニ入

四位成

禁錮者　黄金を授け

上ハ爵ヲ

奪ハル

大ノ字ノ如ク

東京御所　金銀ヲ授ケ

上ハ爵ヲ

奪ハル

大ノ字ノ如ク

東京御所ニ　右ニ同ジ

上ハ爵ヲ

奪ハル

中字ノ如ク　右ニ同ジ

上ハ爵ヲ

奪ハル

小字ノ如ク

無官ノ者代（イナシ）

白銀ヲ授ケ

日ノ如ク

内侍ノ如ク　金銀ヲ授ケ

上ノ

職事

位記

白銀ヲ授ケ

日ノ如ク

白銀ヲ授ケ

日ノ如ク

白銀ヲ授ケ

日ノ如ク

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

正院
中務省輔
奏待奏
中務少輔
主殿
副使
正六位代
雑掌二人

上奏ノ事
勅解申渡ノ事
但位記
上卿
職事
位記
弁済
中務丞輔
主殿
内侍
中務丞輔
内侍奏
但位記
上卿
宣旨
上卿
中務丞輔
主殿
剣璽
弁内侍代
雑書ノ人
受領成
宣旨
上卿

上ル
破ル
宮号
毒薬
到仗
所司代
雑掌四人
四位成
白地ニ
日ノ丸ニ
日ノ丸ニ
日ノ丸ニ
赤地ニ
日ノ丸ニ
日ノ丸ニ

禁裏　黄金ニ
上藤巴
花橘巴
大神宮人
東宮御所　各紫地ニ
上藤巴
丸ニ
白地ニ
日ノ丸ニ
東院御所　右同
上藤巴
白地ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

勅解由當ニ
中宰相不　曰
上表ニ而ハ
兵部ニ當ル代
因准不　如聖ニ
上ニ
聞ニ
位記
亦准

中務輔
直侍奏
中務輔
主殿
副使
山陵使
雑掌二人

五位成

禁妻　　妻奈良木枝行要

上篇四百九

本條四百九

大四乳人九

東宮帥本　名張之枝

上篇四百九

四乳人九

東院帥本　右同前

勘解由小祿四百

中宮帥本　右同前

上篇四百

兵部四百

因伯本　名張之枝

上篇

誠多

信記

四清

日六年自

中務大輔
西洋参
中務少輔
主殿
副使
等乃代
雑掌四人
受領成

宮内
上卿
職事
副使

無論官私船舶
石炭
木材
薬品
書籍
雑貨

元号并
雑書
　女官女位ヲ
　位ヲ以テ礼物ヲ
　従四位下　中務
禁秘
　宮城ヲ
東宮帥ヲ
　帥ヲ
　従四位下
　破子
左近衛将曽ヲ
　宣旨
　位記

右兵衛
　曰　ヲ
　右ヲ
　中務
　帥ヲ
　紙ヲ
　中務
　帥ヲ
　紙ヲ
　中務
　帥ヲ
　紙

中務大輔
正従
高階業
中務少輔
重任
宮内副使
位記副使
内匠寮
雑掌四人
日宇
日高
日文
日今
日新
日高
日文
日高
日文

従三位威
禁秉　御書所
上薗正
長橋局
大典侍
東宮帥
上薗正
大典侍
東院帥
右田所
白朮
白朮
白朮
白朮
白朮
白朮
白朮
白朮
白朮

上爵ヲ爲レ
勲解ヲ褫ヒ
中宮亮ヲ
上爵ヲ爲レ
兵部ヲ
因幡ヲ

従三位上ヲ
因幡ヲ
中務ヲ

同職ヲ
位記
宣旨
中務大輔
安倍泰
山清原
中務少輔
主殿
宮内副使

従五位下ヲ
同
従五位上ヲ
同
従五位下ヲ
同
従五位上ヲ
同
従五位下ヲ
同
従五位上ヲ
同
従五位下ヲ
同

位記副仗
位子刀代
雜掌四人

傳正威

禁秉　白杖
上臈四位
侍従四位
大四位人

東宮帥　大納言
四位人
春院帥　右大弁
上臈四位
勅解由小路四位
中宇帥
上臈四位
兵部卿四位代

金吾（一二）
四位

金吾（一一）
四位

金吾（一一）
四位

金吾（一一）
四位

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

上卿
職事
宣旨
奉仕
雑掌四人

法印成

禁裏　　蔵人頭
上臈四位
　　同
　　同
　　同

上爲ニ爲ニ
兵部ニ爲代ニ（イナシ）
回付不　　　

棟梁　　於帳之老錦頭為義納續之者

上篇四卷　　金武イ本
長橋四卷　　同
大四乳人　　同

東宮御本　古圖所載
上篇四卷
四乳人

東院御本　古圖所載
上篇四卷

勘解由小路家
中宮御本　古圖所載
上篇四卷
今欠四卷代

上古
職事
宮方
高倉
雜掌四人

今圖所載ハ十五通ニ

右位記宣旨并中務
位記
宣旨
中務卿
中務大輔
雑儀
主殿
中務少輔
雑掌已上

倶右位記授儲君已下諸臣礼物
已出中務以上

右官銭主殿寮二年八月卿改定

宝暦乙卯年三月廿七日

日光御門跡明廿八日御発駕ニ付
御暇被下候間一昨日御宮ニ而
御礼申上候

寛政元酉年正月廿三日

日光ニ而覚

御威状或ハ御書翰ニ而ハ寛美宮様

[illegible]

延享三丙寅年十月八日

御奉行所

佐渡奉行

正月廿日

堀田下総守

阿部豊後守

一 預かし[illegible]刺物 御奉行所御預[illegible]

面々共 御奉行所ゟ[illegible]

[illegible]

加納[illegible]

戸田淡路守[illegible]

一 病気物[illegible]

断し奉

二日 同預[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之趣可申通候

十月

寛延元戊辰年　十月十六日

佐渡守殿

頭地之寺社　御奉行所

[illegible]

并仗者之小脇指山袖無上下着用

之事

右之通可申通候

寛延元戊辰年十月十六日

佐渡守殿　大目付

[illegible]

為御礼御奉行所可申上候

御出之節も同断

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

宮内庁書陵部蔵

[illegible]
寛延元戊辰年閏十月十[illegible]
信濃守殿
[illegible]
[illegible]日付[illegible]
淨圓院様御位牌
淨圓院様
源徳院様
[illegible]
[illegible]
三御所様御代法號無之[illegible]
[illegible]
[illegible]
宝暦十二壬午年九月十四日
松平右近将監殿
稲垣出羽守殿
寺社奉行
所司代

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

候支配ヲ去春以来当村ニ於テ其筋書付
相平和ニ取扱ヒ戸田氏安三ヨリ可差出ノ処
寺社ニ於テ御朱印被渡候ニ付
通可差出ノ処御取用ニ不相成
合ニ
右之通可申聞候
九月

宝暦十三癸未年　十月廿六日
酒井左衛門尉殿
寺社ヨリ掌ト　御朱印
面ヲ左衛門尉殿
玉垂宮ト面ヲ
等ニ面ヲ左衛門尉殿ヨリ
紙加ヘニ面ヲ
右之通可申遣
十月

天明八戌申年三月廿
名屋毋波寺殿ヨリ渡ル
大屋主ヨリ達
三日昼
日ニ
一表向ヨリ時刻ヲ申
一殿中壁ヨリ日ヲ務ル者用事ニ来

天明八戌申年三月廿
名屋毋波寺殿ヨリ渡
三月昼
一御墨書院出御
ヲ表ヨリ御覧ヲ
入御先年御方ヨリ
高家ヨリ当年居候書
布衣ヨリ役人ヲ
御目見
御判物御集印
回
御用ヲ
会ヲ
一回

一御書院　出御判物　御茶
下お居間御縁ゟ方ゟ
八御玄関　湯ゟ方ゟ
居合ゟ布衣以上
御目見

寛政元酉年三月公
令若毋被為成候
牧野大和守
寺社所　御茶
所ゟ所習村習或
所支配ゟ去ゟ来
書付杉原右京亮
出ル元寺社所
右ゟ通ゟ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

[illegible]会ニ
右之通可[illegible]御
三月

寛政元酉年十月十七日
当番毋波雪殿ヨリ渡
山田肥後守殿

[illegible]紀州家中頂戴仕
[illegible]御来中[illegible]
[illegible]御小袖麻上下[illegible]

右之通可[illegible]
十月

寛政元酉年十月十七日
当番毋波雪殿ヨリ渡
山田肥後守殿

紀州家中　御来中お渡ニ而受
毋波雪殿ヨリ通ル病気ニ付名代
[illegible]

死札ヲ与フル証ナリ
右之通ニ候事

寛政元酉年十月晦日

名古屋冊波殿家来
松浦誠左衛門

寺
西村三蔵

石川与三右衛門

可レ為二名誠一旨面々江冊書
宅ニ而申越ニ付届ル事

名代ニ而ハ無レ之

右之通ニ候事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

寛永二乙酉年六月十四日

覚

一 山王祭明十五日ニ朝 御名代ニ而 御参詣之事

一 御名代ニ而 御参詣ニ而 御祓ニ而 御帰ニ而 御祓下ニ而 御参内ニ而 御帰ニ而 御祓ニ而 御帰ニ而 御祓ニ而 御帰ニ而 御祓

一明十四日山王祭礼之日時分
出門除まて参置候
招てまた
六月十四日

寛永四丁卯年九月九日

覚

一祭礼参加仕候御願申
上候事右御奉敬を御奉
行衆江申渡候而後
参礼当日之儀御断
申上候事

子九月

寛永四丁卯年九月十四日

一明後十四日祭礼之時分義御断
参置候事右御奉敬を
御奉行衆江申渡候而
可参事

付ル

九月十二日

享保三戊成年九月

勿礼之段　御祝詞
御附遣ニ而玉ヲ差下ス

九月

享保六辛丑年四月

一　新ニ勿礼ニ相成候者
之通自今下ル仕候
一　座たい一切無用ニ
一　勿礼之人数一組ニ付一町切ル
一　勿礼之人数多ク候ハヽ二組
一　宿々町ニ人馬
一　右ニ付而ハ　御
一　諸事ニ付而ハ
一　勿礼之一通ニ

作り等かまたく板等代一切て
為替用は左記口座へ御入金を願
ひ奉ります事
一 無謀行りの結婚媒介仕ります事
右之通町中へ御触知者也
四月

享保六辛丑年四月廿日

向後奈良茶飯屋之儀
一 旅籠屋へ往来之者共芸者
抱置申間敷候
一 宿屋仕候者共前方より約束
無之者共酒肴之儀
一 旅籠屋へ泊り候者共
別而懇意之者ニて
無之者共夜中ニ
酒肴出し申間敷候
一 旅籠屋へ泊り候者共
夜中ニ酒肴出し申間敷候
以上
午四月

享保六辛丑年六月吉日

一 明十五日御礼ニ登城被仰付候ニ付、
　　其節ハ上下着用ニて可罷出候、
　　以上

一 明十五日山王御祭礼ニ付、御上
　　上下着用ニて可罷出候、
　　以上

一 明十五日御礼ニ御上下着用ニて
　　可罷出候、以上

一 明十五日御礼ニ御上下着用ニて
　　可罷出候、以上

為心得申上候、御成之節
ハ通ニ可仕候、以上

八ツ口目付

一 新ニ召抱小十人ニ被仰付候ニ付、
　　為心得申上候、御成之節
　　ハ通ニ可仕候、以上

代り合ニて年寄衆ニ通

享保十一丙午年十一月

新規ニ神事佛事等ニ關
いさゝかも書付
於生ニ新ニ神事佛事を不作
よりハ新規ニ佛閣等ニ不建立
ニ相背ニ付又ハ地
たる不心得ニ付ハ
一 惣而寺院中觸ニ
有道理ニ而ハ
享保十二丁未年九月
一 毎度大坂ニ而
報恩ニ修行ニ

享保十二丁未年十月廿六日

土屋安房守殿

大森主水正

其許支配之内

本所五ヶ寺建立之儀

申渡候間

其心得可申候

以上

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

英國ハ組合ヲ廃シ例ヲ設ケ
來ツテ仕出ノ
右ノ趣堅ク守ラシメ違背
ニ所ノ名主ヲ初メ等ヲ
以ツテ
未十一月

元文三戊年年正月廿日

觸書寫
行千代村ノ山ヲ六ヶ年斗
白銀拾枚
右之通ヲ以村
ハ觸ヲ出シ
寛保元辛酉年六月十日
明十日ヨリ新札ヲ以取

五ヶ寺御供当十人宛下ニ而
少々ツヽ以上 御廻シ節当番より
出ル勤ニ而下ニ而ハ六ヶ寺ハ
御門ヘ入ル国侍ハ下ニ而
ハ当番一同ニ下ニ而ハ
割符ハ不申請ル事ニ
シ而下ニ而ハ右之
申渡ス

彩ハ当山十人ニ而入口ニハ当山当番
少々ツヽ御廻シ節ハ
ハ当番宿代ハ
シ当番ニ而ハ

六月十日

寛保元辛酉年六月十日

明十四日山王祭礼列儀出し候
限り諸事前々通仕差出
し可申候
六月十四日

寛保元酉年六月十四日
町内名主

寛保二戌年九月

北澗町中より富士加持の者病
人差出し候ハヽ右之もの取扱
可申候

お用ひ差一病氣快
中候一筆メの通申
まゐらせお共ゝゝ
味し上差てゝ
御前迄

延享三丙寅年三月十六日
加賀守殿

一 永川吟神ん 正月十日 御名代例文
白銀十枚 御進献

一 六月十日 白銀十枚 御名代例文
右之通向後御進献
ゝゝ
一 当正月ゟ御在中ゟ
ハ毎月十日ニ御進献ゝゝ
三月十七日

右書付加判之儀被仰渡奉畏候
若ゟ御渡等無之候ハヽ奉畏候
仍而

宝暦九己卯年　　月　日

一　町人共一統信仰之町中退転無之様
　　可致旨被仰渡候ニ付
一　六七年来御願申上来候通
　　一向宗ニ限り候儀ニ無之候ハヽ
　　此法之儀及下知候迄ハ
　　為念御断申上候通
　　雅楽たし一切不仕候様
　　可致旨被仰渡候ニ付
　　致ハ敲笛古鼓之儀
　　如来ニ面ハ従来
　　此又三味線之儀

宝暦九己卯年　月

[illegible]天王祭礼初年ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石之新町中ヘ触知者也

　月

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

卯
115
1

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

卯
66
1

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』請求記号 卯-1

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1